③ 子どもの経験や発達段階に即していなければならない。

④ 子どもの疑問や問題意識と合致し、追究したいと思うものでなければならない。

⑤ 子どもが解決の見通しを立てたり、調べる手立てが考えられるものでなければならない。

⑥ できるだけ地域教材を生かし、興味・関心を高め、体験できるものでなければならない。

(2) 学習課題づくりの過程（資料1）

① その学習への興味・関心をもたせもっとくわしく調べてみたいという学習意欲を喚起する。

② 興味・関心から一歩進めて、疑問・問題意識へと発展する。

③ それらの疑問を解決するために、調べてみたいことを自分の学習問題としてまとめる。

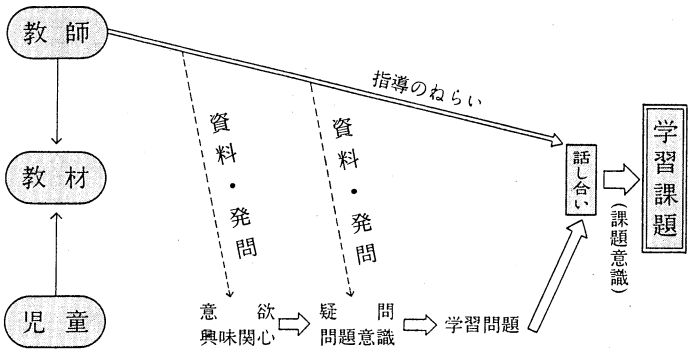
④ 個人が問題としてとらえたことを教師の意図とからめて、話し合いによって問題を焦点化する。

⑤ 全体の問題としてまとめ「学習課題」とする。

⑥ 課題解決の見通しを立てさせるようにする。

⑦ 課題解決までの計画を立てさせるようにする。

資料1 「学習課題づくり」の過程



資料2 追究のある学習過程

段階	教師	児童
つかむ・たてる	○ 問題意識を持たせる。 ・ 身近な教材の提示や発問から。 ・ 意外性のあるものから。 ○ 疑問・矛盾に気付かせ、本時の課題を練り上げさせる。 ・問題意識を課題意識へと高めさせる。	○ 問題の所在を考え問題意識を持つ。 ・ 既習事項や既習経験から考えを発表する。 ○ 本時の目標を把握し、課題意識を持つ。 ・ 既習事項の分析・総合からいくつかの予想を考える。
追究する	○ 問題解決のために分析・総合・関係把握など思考場面を設定し、追究させる。 ・ 事象の関連・比較など具体的条件を明らかにする。 ・ 資料の提示・説明・指示をする。 ・ 意見交換を通し全体で確かめさせる。 ○ 根拠を明らかにし、解決させる。	○ 意欲的に問題解決に取り組み追究する。 ・ 解決への手順を考える。 ・ 根拠となる資料を自ら探り解決する。 ・ 他の方法で解決できないか考える。 ・ グループなどで討議し、内容をメモする。 ○ 根拠を明らかにし意見を発表し解決する。
まとめる	○ 課題とその予想をふりかえりながらまとめさせる。 ・ 解決したことをまとめさせる。 ・ 予想したこととのずれをはっきりさせる。 ○ 発展的に派生した問題について考えさせる。 ・ 既習事項や他の場合と比較させ、特色を把握させる。 ○ わかったこと、わからなかったことを明らかにし、次時への問題意識を持たせる。 ・ 学習事項の整理と評価をさせる。 ・ 次時の学習についての話し合い	○ 予想したことと比較しながらまとめる。 ・ ことば・絵・動作でまとめる。 ・ 予想したこととの違いをはっきりさせる。 ○ 具体的な事実・事象にあてはめてみる。 ○ 学習への取り組みを反省・評価する。 ・ 板書等を整理する。 ・ わかったこと・不明な点・疑問点をはっきりさせておく。 ・ 自己評価をする。 ・ 次時の学習について知る。

問題意識……「あれっ」「おやっ」「不思議だ」「すごい」等の意識のこと。
課題意識……問題意識に自分なりの予想が加えられるものであり、さらに全員のものとなっているもの。

(二) 追究のある学習過程

(1) 追究力を高める学習過程

子どもたちが、追究意欲をもやして学習に取り組むためには、学習の目標と自分の考えをしっかり持って、問題に内包される矛盾や疑問から、新しい価値を見い出し、思考を繰り返しながら解明し、更に新しい課題に対し問い続けるような追究のある学習の道すじをたどらなければならない。このような考えに立って、「追究のある学習過程」を構想し、研究・実践の手立てとした。（資料2）

(2) 子どもがつくる追究の道すじ

――子どもの思考過程――

授業を行うに当たって、子どもの思考（自ら問題を発見し、学習の順序を整えて、学習の方法を駆使する行動としてとらえる。）が中核にすえられた学習過程を組み立てなければならない。子どもたちの中に（資料3）に見られるような学習活動が成立した時、主体的に追究している姿ではないかと考える。

(三) 追究力を生む資料活用

主体的に追究する能力の育成を目指した学習指導においては、子どもの興味・関心を高めるための資料の提示はもちろん必要だが、解決のための資料を子ども自ら求め十分に活用するということが重要な位置をしめてくる。

そこで、学習活動の中で子どもの思考過程（追究の道すじ）にそった資料の整備、活用を次のように具体化した。

資料3 子どもの思考過程（主体的な追究の道すじ）と学習段階

学習段階		子どもの思考過程
①つかむ	学習課題の設定	「おや、変だ」「なぜだろう」「どうなっているのだろう」 } 疑問・矛盾・興味を抱く。 ↓ 「調べてみたい」追究学習への出発
②たてる	既有の経験・知識の駆使 ↓ 仮説の設定	「こう考えたらよいのではないか」 「この問題をどのようにして調べたらよいのだろうか」 ↓ 学習の計画・手順を立てる。
③追究する	仮説の検証	「調べる」「見る」「考える」 「これとこれは、こんな関係にある」 「あっわかった。そうなるのか」 } ねばり抜いて、解決する。
④まとめる	課題の解決 ↓ 新たな問題	「新しくわかったのは、これだ」 「ここが、前に学習したのとつながりがある」 } 包括的にまとめる。 ↓ 「それなら、ここはどうだろう」 「新しい問題は」 } 次の学習への新たな興味と関心を抱く。